

11.九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連  (九州)		百貨店（売場担当）	競争相手の様子	・8月にリニューアルオープンをした店舗では売上が2か月連続で2けた増加となり、3か月前と比較するとかなり売上は改善している。当店で、婦人服はどうか維持しているが、他の商材については伸び悩んでいる状況にある。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・10月に入ってから、来店客数が増加している。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・10月中旬から秋物衣料品が動き始め、若干ではあるが、売上は増加傾向にある。しかし、高額商品の動きが鈍く、安価な商品で売上を維持している。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・3か月前は連続の台風で非常に景気は落ち込んだが、10月に入り来店客数が増加し、秋物新製品の動きが良くなっている。
		一般小売店〔青果〕（店長）	それ以外	・予想に反して台風の被害も少なく、高騰すると思われた野菜果物が販売しやすい価格で入荷している。秋の気候になり客の購買心も高まり、3か月前と比較するとかなり良い状況になっている。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	販売量の動き	・熊本地震以降、半露天の仮店舗で営業しているが、猛暑であった7月と比較すると、10月の方が格段に来客数も多く、花の販売量も増加している。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・前月末、台風接近の影響で月初の来店客数が減少したが、恒例の物産催事開催で勢いを取り戻し、催事初日から土日祝日へとつながり、購買意欲が高い目的買いの客が増えている。特設会場への来場者数及び来場率ダウンは中旬まで続いたが、中旬以降は催事の開催等により、全店がにぎわった。一方、特設会場の混雑を避けるため先延ばしする客も目立ってはいたが、下旬開催の自社クレジット催事と物産催事の連動により共に好調で、売上伸長率、購入客数も上昇した。
		百貨店（営業担当）	それ以外	・訪日外国人客の来店が増加しており、今月についても、前月からはやや落ち着いているが、高い伸び率となっている。国内の客については、今までのトレンドと変わっておらず、不安定な要因で前年の売上を維持している。
		百貨店（売場担当）	来客数の動き	・8～9月は2か月連続で来店客数が前年を上回り、10月についても現在のところ前年を超えて推移している。
		衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・台風の影響で涼しくなり、客の動向が良くなっている。
		衣料品専門店（店員）	お客様の様子	・例年よりコートの買換えを検討する客が多く、早い時期から高価格な重衣料が動き出している。
		家電量販店（店長）	単価の動き	・主要な商品10項目の1品単価を前年と比較すると、8項目で単価上昇しており、携帯電話も新型の価格が高いにもかかわらず、台数は前年を上回っている。
		その他専門店〔ドラッグストア〕（企画担当）	販売量の動き	・季節商材の動きが良くなっている。
		その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕（従業員）	来客数の動き	・平日でも国内観光客が多く、また訪日外国人の来店も増えている。それに伴い売上も増加している。
		高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・大河ドラマも盛り上がりを見せ、客の反応もある。台風も落ち着き、12月にかけて宴会や各イベントの大会も多く催されるため状況は良くなっている。
		都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・個人の動向が良くなっている。
		都市型ホテル（副支配人）	単価の動き	・例年以上に毎週大型会場にコンサートや学会等の予約があり、特に客室単価が上がっている。
	タクシー運転手	来客数の動き	・今月は過ごしやすい天候に恵まれ、イベント客や観光客が増加している。近距離のタクシー利用者が減少しているものの、売上が落ち込むことはない。	
	観光名所（従業員）	来客数の動き	・繁忙期を避けて観光する客が多くなり、また3連休が2回あったこともあり来客数自体は多かった。ただ、台風の2週連続襲来等により観光の目玉であるボートが運行できないことが多く、滞在時間は短い状況にある。	

	商店街（代表者）	単価の動き	・来店客数には変化はないが、購買までに判断が至らないため、販売量は少ない。
	商店街（代表者）	お客様の様子	・依然として商店街への来客数に変化がない。来客の半分以上は外国人で売り上げにつながらない。鮮魚の高騰と品薄で台所を担う人は大変である。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・毎月の売上は、例年に比べ横ばい傾向である。時には高額単価の物も動くが、来店客数には余り変動がない。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・10月に入り、9月の災害の後で若干状況改善すると予測していたが、悪い状況が続いている。訪日外国人や販売量が減少している。
	一般小売店 〔茶〕（販売・事務）	来客数の動き	・肌寒くなり、来店客数は徐々に増えているが、相変わらず必要な物だけを求めるため、購入金額は低い。売上は例年と変わらず横ばいである。
	百貨店（プロモーション担当）	販売量の動き	・引き続きインバウンドが好調で、中でも中国の祝日には数字が伸びた。
	スーパー（店長）	来客数の動き	・生鮮食品の売上は相場高により前年の102%で推移しており、衣料品については秋物衣料の不調で前年の98%となっている。全体的には、前年と変わらない売上である。
	スーパー（店長）	来客数の動き	・来店客数の前年割れが出ている店舗が多く、売上は全般的に低調である。特別販売日にはそこそこの売上があるが、それ以外の日は、来店客数、客単価共に落ちている。
	スーパー（総務担当）	来客数の動き	・全店の売上は前年比プラスであるが、来店客数は前年割れの状態が続いている。特定の店舗においては、競合店の進出により月間売上の前年比マイナスが続いている。
	スーパー（統括者）	来客数の動き	・季節どおり気温が下がり食品も動き出しているが、来店客数は前年を下回っている。価格が安いドラッグストアやディスカウントショップで購入する商品とスーパーマーケットで購入する商品を賢く使い分けており、なかなか売上の増加に結び付いていない。
	コンビニ（経営者）	お客様の様子	・今月は例年と比較すると若干気温が低い状況が続いたため、飲料関係の売上が大きく下回っている。気温が下がると需要が増えるお弁当の売上は伸びているが、飲料の落ち込みを補えていない。
	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・災害復旧工事の影響で人が増えているにもかかわらず、相変わらず来客がない。
	衣料品専門店（取締役）	お客様の様子	・ファッション業界は常に気候に左右されるため、この10月の秋らしい気候が、季節商材を動かし消費者の購買意欲につながっている。その影響が景気を加速させているわけではないが、まずまずの動きである。
	衣料品専門店（総務担当）	来客数の動き	・商業施設間の競争により来街者数が減少し、それに伴い当店への来店者数も減少している。
	家電量販店（総務担当）	販売量の動き	・台風と長雨による天候不良がリフォーム事業に悪影響を与えており、またデジタルカメラ等が以前より動かない状況にある。
	家電量販店（広報・IR担当）	販売量の動き	・通年商材となったエアコンディショナーは好調に推移している。その他の主要商品は伸び悩み、単価下落も目立っている。
	住関連専門店（経営者）	お客様の様子	・都市部でのキャンペーンは余り良くなかったが、店舗での売上は前月に引き続き良くなっている。地元産業祭も台風の影響は余りなく、売上は前年並みであった。
	その他専門店 〔コーヒー豆〕 （経営者）	お客様の様子	・前年と比較すると来店客数及び購入金額等は、ほぼ横ばい状態である。売上も同様である。
	その他専門店 〔ガソリンスタンド〕（統括）	お客様の様子	・燃料油の小売価格は、高止まりからやや上昇の状況である。燃料油をクレジットカードで購入する客の様子にさほど変化はみられないが、現金払いの客では定量、定額購入がやや増加している。
	その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	販売量の動き	・8～9月は、酷暑で週末の館内需要が高く、映画業界の売上が良かったこともあり、施設全体が好調に推移したが、10月に入り、一転厳しい状況となっている。気温差が安定しないことで、物販テナントが苦戦したことが大きなマイナスとなっている。ここ3か月の売上動向をみると、ほぼ横ばいの状況である。

その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕(統括者)	来客数の動き	・クルーズ客の来場が減少傾向にあるところを考慮しても、大きな変化はみられない。
都市型ホテル(販売担当)	販売量の動き	・ホテルとしては繁忙期へ入っているが、前年と比較すると大きな増加ではない。
旅行代理店(企画)	お客様の様子	・申込みに関して、例年に比べ総じて鈍化している。
タクシー運転手	お客様の様子	・今年は、10月にしてはゴルフの客が少なかった。
ゴルフ場(従業員)	単価の動き	・入場者は、前年を確保できる状況ではあるが、来場者の購買意欲や服装等は変わらず、単価上昇の傾向はみられない。
美容室(経営者)	来客数の動き	・世の中が不景気で、客の気持ちが高揚していない状態である。
美容室(経営者)	販売量の動き	・3か月前から比較すると景気改善しそうな気配はあったが、伸び悩んでいる。売上も前月と変わらず、この業界は、まだ景気回復していない。年末に向かいキャンペーン等もあり、少しずつ上向いていくと期待している。
美容室(店長)	それ以外	・大河ドラマの影響で観光地等にはにぎわっているが、観光地から外れた場所では変化はない。
その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕(管理担当)	単価の動き	・前年度と比較すると客数の伸びは低調であるが、4月の報酬改定の影響等により客単価が上昇しており、業績をけん引している。
住宅販売会社(従業員)	販売量の動き	・受注状況は、ほぼ横ばい状態で推移している。
百貨店(総務担当)	販売量の動き	・9月は連休に恵まれたにもかかわらず、全体的に来店客数が減少している。特に飲食テナントの客数が大幅に減少しており、宴会需要が伸びないことも含め、厳しい状況が続いている。
百貨店(業務担当)	お客様の様子	・例年に比べ冷え込みがあるにもかかわらず、秋物需要が伸びない。客の反応も例年ならば購入意欲が出てくるところが、洋服の場合は、購入時期を考える客が多い。客の買物意識は明らかに弱い。
スーパー(店長)	販売量の動き	・低単価志向で必要なもの以外、買物をしない傾向にある。
スーパー(経理担当)	販売量の動き	・台風や震災による漁獲量減少や野菜不足、物流停滞等の影響で売れなかった。特に北海道産商品の減少や平成30年7月豪雨による物流寸断が響いている。
コンビニ(経営者)	来客数の動き	・10月は気温の変動も多く、季節商材の売行きが思わしくない。また、景気浮揚の要素もないため客の購入動向も悪く、売上は前年と比較して大きく低下している。
コンビニ(店長)	販売量の動き	・たばこ値上げの影響が出ている。
コンビニ(エリア担当・店長)	お客様の様子	・たばこ値上げの影響が出始めている。前回の値上げよりも来店客数の減少はないが、プラス1品買いの客は、以前と比べて減少している。
家電量販店(店員)	販売量の動き	・10月に関しては季候が良くなり、売上は例年と変わらない状況ではあるが、猛暑の7月の景気と比較するとやや悪い状況である。
乗用車販売店(総務担当)	販売量の動き	・新車販売台数が低調である。前年を大きく下回り、目標の8割にも届いていない。自動ブレーキ等の安全装置装着を訴求するが、客の反応は大変薄い。
乗用車販売店(販売担当)	お客様の様子	・数か月前と比較すると、客の財布のひもが固くなっている。購入の決断までに時間が長くなっている。
高級レストラン(経営者)	来客数の動き	・前月より来店があるが、動きは鈍い状態である。来店客数も前月より増加したが、まだまだ伸び悩んでいる状況である。
一般レストラン(経営者)	来客数の動き	・前年よりも来店客数が減っており、1人当たりの単価も低くなっている。
観光ホテル(総務)	販売量の動き	・月によって動向は変わるが、熊本地震後の復興景気の力強さが感じられなくなっている。
都市型ホテル(スタッフ)	単価の動き	・高価格の商品の売行きが鈍ってきている。
旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・韓国方面は回復したが、東南アジア方面の不振が続いている。国内は秋の紅葉シーズンを迎え京阪神を中心にまずまずの予約状況である。

	タクシー運転手	お客様の様子	・新聞報道では、景気は現状変わらずで推移しているが、現実ではガソリン価格の高騰による影響が出始めている。
	通信会社（営業担当）	お客様の様子	・期待していた経済効果が、期待どおりに出ていない。年末に向けて収束感が出てきている。
	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・通信サービスの販売件数が減少している。
	通信会社（業務担当）	単価の動き	・10月から販売手数料が更に下がっている。販売手数料の下げ止まりは期待できず、いずれ手数料自体がなくなるのではないかと危惧している。
	音楽教室（管理担当）	来客数の動き	・これから本格的な受験シーズンに入るので、習いごとを控える客が増えてくる。
	設計事務所（所長）	単価の動き	・生活では食料品等の必需品が、業務では人件費や材料費が上がっている。
	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・マンションの引渡しが終了し、新規着工の端境期に当たるため、10～11月は販売する物件がない状態となり、売行きは下降気味である。
	x 一般小売店〔鮮魚〕（店員）	販売量の動き	・とにかく魚が売れない。入荷量を増やすとかなりの数が残ってしまい、余った魚を値引きしなければ売れない状況である。
企業 動向 関連	-	-	-
(九州)	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・繁忙期に入り、商品の動きは活発になっている。平成30年7月豪雨の影響を受け本来の予測より鈍くなっている。
	金属製品製造業（事業統括）	受注量や販売量の動き	・東京オリンピック・パラリンピックの影響で受注が大幅に増加している。空調関係は生産が間に合わない状況にある。
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・金属部品加工部門の受注については、短納期が多く、工程短縮に追われている。状況は前月とほぼ変わらない。
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量が増えているにもかかわらず、生産能力に限度があるため受注を控えている。今後も受注量はしばらく増え続けていく。
	電気機械器具製造業（取締役）	受注量や販売量の動き	・売上は伸びている。しかし、米中の貿易戦争の影響を受け、先行きの見通しを保守的に捉える取引先も出てきた。
	経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・新事業開始や採用を増やす取引先が増えてきている。
	その他サービス〔物品リース〕（支社長）	取引先の様子	・取引先の数社に増産による工場拡大の計画がある。既に着工している業者もあり、今後の業績拡大が見込まれる。しかしながら人員確保も忙しく、社員の定着化、募集拡大が問題になっている。社員数人が住宅を購入していることも踏まえ、景気は良くなっている。
	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・10月は行楽シーズンで大きな需要を期待していたが、月初めの台風の到来により、工場の休業日や稼働縮小の日が発生し、大きなチャンスを逃してしまった。それでも、売上はほぼ計画に近く安心しているところである。鶏食メーカー向けの需要は、予想どおり年末年始の引き合いが強い状況にある。
	農林水産業（営業）	受注量や販売量の動き	・荷動きは、季節要因もあり良くなり始めているが、野菜高騰等の要因の影響が出てきている。
	家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・10月の平均売上指数は98%となり、前年並みとなりそうである。対前年比でも96%とほぼ横ばいである。今後、上海等で生産している家具も貿易摩擦の影響で価格が上がる可能性もある。
	電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・取引先からの受注は、ここ数か月変わらない状況である。
	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・工事受注を全て終えている。これ以上の技術者もいないことで受注ができない状況にあり、フル稼働を続けている。
	建設業（社員）	受注量や販売量の動き	・発注は第3四半期に入り停滞気味で、先が見えない状況にあり、現状では手持ち工事一杯である。第3四半期の発注が極端に少なくなり、年末までに来季の繰越分が発注されることを期待している。
	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・日本製特定保健用食品のうち、特にダイエット系は訪日外国人を含め受注好調を維持している。

	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・災害により商品を九州や本州に届けることができなかったが、JRの復旧等により徐々に回復している。一部のメーカーでは、少ない在庫で在庫圧縮をしているため欠品にはなっていない。受注量や販売量が大きく変わらない限り、景気が良くなる傾向はない。
	輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・在庫量が多いものの、出荷量は減っている。したがって、滞留在庫が増える傾向にある。推察すると国内の需要量は飽和状態であり、見込んだほど受注がなかったと考えられる。景気が悪くなっているということではなく、良くもなっていないという状況である。
	金融業（従業員）	取引先の様子	・住宅関連や家電販売がやや頭打ち傾向にあるが、給与等の所得環境が好転しており、百貨店では化粧品や高額商材などの売上が増加してきている。
	金融業（調査担当）	それ以外	・融資残高の伸長率はプラスで推移している。内訳をみると、大手企業は横ばいで、地方中小企業は引き続き上昇している。また、融資利回りは競争激化に伴い、引き続き低位で推移している。地域の取引先の資金需要は、一定の水準を堅持しており、3か月前と比較して大きな変化はないと捉えている。
	金融業（営業）	競争相手の様子	・現在まで製造業、建設業等多くの業種で高い水準の需要が続いている。人手不足の問題も外国人の雇用等により和らいでいる。
	金融業（調査担当）	取引先の様子	・製造業やサービス業では、受注は比較的順調だが、人手不足により十分な対応ができないという声を聞く。運送業や土木・建築業等におけるドライバーの人手不足感が強まっている。
	経営コンサルタント（社員）	それ以外	・10月初めにセミナーを開催したが、参加者が10名を切るという不調だった。
	経営コンサルタント（社員）	取引先の様子	・消費税の引上げのニュースが出始め、消費者は意識し始めている。
	経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・良い状態ではないが、それほど落ち込んではいない。3か月前と比較すると余り変化はない。
	繊維工業（営業担当）	取引先の様子	・取引先は、各工場からの工料値上げの要求を受けている。繊維業界の景気は良くないため、最低賃金の上昇は、かなり厳しい状況になる。
	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・10月については、業界の動きが最も良い時期であるが、前年度と比較すると受注関係が落ち込んでいる。従来の商品流通が変化しているか、あるいは個人消費が落ち込んでいるかが考えられる。
	金融業（営業担当）	取引先の様子	・中小企業のサービス業に関しては、慢性的な人材不足で規模の縮小を余儀なくされていることにより、状況は悪くなっている。
	金融業（得意先担当）	取引先の様子	・経営者との会話の中で、人材不足の話題がよく出る。募集をしても応募がない状況が続いており、そういった状況下から新たな設備投資や運転資金の需要等を模索している。景況感は厳しい状況で懸念している。
	x	競争相手の様子	・建設コンサルタントで市町村の設計等を請け負っているが、設計業務の発注が少ないことから、指名競争入札のときに価格競争が激しくなる。設計業務では、入札の最低価格があらかじめ公開されている場合もあるが、ほとんどの会社が最低価格で入札するので、くじ引となるケースが多い。
雇用 関連 (九州)	-	-	-
	人材派遣会社（社員）	雇用形態の様子	・派遣で仕事を探している登録者の動きが鈍い。条件の良い案件でも、なかなかエントリー者が見つからない状況が続くことから、市場の求人状況は良い。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・業種業界によって差はあるが、当市周辺は都市開発の予定が多く、不動産業を中心にかなり活発な印象である。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数は確実に増加傾向を示しており、引き続き好況感が認められる。
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人案件数が前年比で110%を超えている。
	求人情報誌製作会社（編集者）	採用者数の動き	・最近では、徐々に採用が増えつつある。

	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人の前年比は、2か月連続で若干前年を下回った。原因は、8月は医療・福祉分野で、9月は派遣・請負業を含むサービス業で前年より減少したことにある。いずれの業種も応募者が少なく充足が難しいため、求人数は高い水準でとどまっている。
	職業安定所（職業紹介）	求人数の動き	・引き続き求人数の増加が見られ、管内の有効求倍率も高い水準で推移している。
	学校〔大学〕 （就職支援業務）	求人数の動き	・2019年卒業採用において、依然充足できずに採用活動を継続している中小企業もある。
	人材派遣会社 （社員）	求人数の動き	・繁忙による増員の派遣依頼は減少し、退職者の補充も控えている。
	人材派遣会社 （社員）	求人数の動き	・前月に引き続き注文数が減ってきている。また、派遣登録希望者も同様に減少している。
x	-	-	-